

組織一丸となった施策で社会的信頼を

全日本遊技事業協同組合連合会 原田 實 理事長



新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、益々ご健勝で輝かしい平成22年の新春を迎えられましたことを心からお慶び申し上げますとともに、平素からのご指導、ご支援に對しまして、心から厚く御礼申し上げます。

昨年は、その前年から続く世界的な経済不況等により、先行き不透明な空気が蔓延するなか新年を迎え、明るい一年のスタートと言えるものではありませんでした。

昨年1月に開催した新年全国理事会においても、こうした苦しい業況の中、全国のホールをどのようには導いていくべきなのか、全日遊連の理事長という重責に、身を引き締める思いで挨拶させていただきました。そんな年明けから始まった昨年ではありましたが、私たち全日遊連、また業界全体にとって多くの前進がありました。

まず、昨年の年明け早々に、私が予てから掲げている業界全体の総親和という方針に則った取り組みが1月30日に開催したパチンコ・パチスロ産業賀詞交歓会において発表することができました。全日遊連、日遊協、日工組、日電協により「大量導入優先販売」や「抱き合わせ販売」等の足を目的とした、いわゆる1団体合意は、団体の垣根をこえた団結であります。

それを契機に、各地ではメーカー、販社等を招き、不公正な販売等の是正に向けた意見交換会も開催され、その意識と気運はさらに高まっております。この流れを速ることなく、今年には業界の商慣習の正常化をより実効的に推し進めていきたいと思っております。

また、12月には、業界関係団体で諸問題を共有し、心を一つにすべく、2年ぶりに21世紀会を開催いたしました。

次に、長年の懸案でありました、遊技産業健全化推進機構の経費負担について、全日遊連が11月に開催した理事会の決議により、暫定的な状態に終止符を打ち、一定の方向性を出すことができました。これもひとえにそれぞれの痛みを超えて、業界総親和に向けたご理解をいただいたものと受け止めています。

環境関係の取組では、全日遊連が策定した「全日遊連 環境自主行動計画」に基づくCO2排出量削減のための電気使用量調査を行い、前年に比べホール数が減少しているにも関わらず、それを上回る回答率を得ることができました。今後、回答の結果をまとめ、環境問題改善に向け、着々と取り組みを進めてまいります。

全日遊連の支援により設立したばちんこ依存問題相談機関リカバリーサポート・ネットワークも、昨年10月にNPO法人化し、またそれを機に他団体への支援要請を行い、一部団体からはともに支援していただく、との声をいただいたいております。依存問題は、ホールのみで対応すべき問題ではありません。将来的には、各団体から賛同をいただき、業界全体で費用を負担し、同機関の活動を支援してゆきたいと考えております。

ホール営業の経営安定のための金融環境改善に向けた取り組みも、社会の動きに呼応して、ホールを対象とした信用保証と公的融資の獲得を目標として、弛まず進めてまいります。この問題は、単なるホール経営の安定のみならず、私たちパチンコ店を営む者の誇りとアイデンティティに関わる重要な問題であります。

昨年は、政権交代等もあり社会全体に大きな動きがありました。我々の業にも今後様々な形で影響がでてくるのが予想されます。しかしながら、私たち遊技産業は国民的大衆娯楽として、健全経営により、一般社会から愛され親しまれるべく、努力を続けてゆくことに変わりはありません。全日遊連という組織一丸となった施策があつてこそ社会から信頼を得、業界の安定につながってゆくのだと思っております。

昨年に比べ、廃業店舗数の推移もどうか下げ止まったようです。また、最新のレジャー白書によると、平成20年は、パチンコ参加人口、参加率、年間の遊技回数、参加希望率など、いずれも前年の調査に比べ回復してあります。

この流れを今年につなげ、今年こそ私たちにとって、輝かしい年になるよう、皆さまのご協力、ご支援を重ねてお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます、私からの年頭の挨拶とさせていただきます。

明けましておめでとございます

本年も宜しくお願ひ申し上げます

(株)遊技経済新聞社

